



関中央ロータリークラブ

2022-2023 WEEKLY REPORT

例会日：毎週木曜日 18時30分 例会場：関観光ホテル 住所：岐阜県関市池尻 91-2
 事務局：岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1階D室 TEL (0575) 24-7332 FAX (0575) 23-5278
 会長 藤村 伸隆 副会長 山本 義樹 幹事 森 敬 クラブ会報委員長 長谷部 貴司

2022～2023 年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ

「いつも一緒に笑い・夢を描き・そして成長しよう」



4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第 2081 回例会 2022 年 10 月 20 日 (木)
 会員卓話 山田文夫会員 高井良祐会員 西田健一会員 喜久生明男会員
 テーマ 「交換留学生をお世話して」 担当 国際青少年交換委員会

前例会の記録 第 2080 回 2022 年 10 月 6 日 (木)
 卓話 美濃手すき和紙協同組合理事長 鈴木竹久様
 テーマ 美濃紙の今 / 担当 米山記念奨学委員会

- *ロータリーソング「我等の生業」斉唱
- *4つのテスト唱和
- *お客様の紹介

美濃手すき和紙協同組合 理事長 鈴木竹久様

*会長あいさつ 藤村伸隆会長

皆さんこんばんは。本日のお客様をご紹介致します。美濃手すき和紙協同組合理事長 鈴木武久様、大変お忙しい中、関中央ロータリークラブ例会においで頂きましてありがとうございます。大変な歴史のある美濃和紙につきまして、「美濃紙の今」というテーマで卓話を頂きます。どうぞよろしくお願い致します。



10月4日に私と森幹事と波多野社会奉仕委員長の3名で、関市役所にお米10俵を届けてきました。市長さんからも感謝のお言葉を頂きました。ひとり親

家庭への支援等は会員全員の思いなのでこれからも継続して行きたいとお伝えしました。

お話は変わりますが、昨日、今日と名古屋大学の留学生の皆さんが、上之保地域に調査と言う事でヒアリングを行っています。昨日は、上之保ふれあいまちづくり推進委員会の委員長として質問を1時間程受けました。通訳を介しての会話なので、途中通訳のお話を聞いているうちに肝心の質問を忘れてしまうなど通訳を介しての会話は初めての経験なので少しとまどいました。そして、今日は、ネイチャーランドかみのほキャンプ場に留学生の皆さんがみえて、ヒアリングを受けました。やはり、一時間程でした。本当にたくさんの方にたくさんの質問を頂いた様です。また大学の方でまとめて頂けるようなので機会がありましたらご紹介したいと思います。

*卓話 美濃手すき和紙協同組合理事長 鈴木竹久様

テーマ 「美濃紙の今」

美濃紙が全国に知られるようになったのは、関ヶ原の合戦の際、徳



川家康が使った「采配」です。采配を作るにあたり、その采配の紙を美濃市御手洗地区の彦左衛門らに紙を漉かせるように申し付けられたと言われていいます。本物は和歌山県の県立博物館にあります。これにより、美濃紙は江戸幕府の「御用紙」となり障子紙の代表的なものとしてずっと使われるようになりました。

美濃の国の国府があったところは、現在の不破郡垂井町のあたりだと言われています。昔、京都に製紙工場があり、支所として垂井町にも工場を作ったそうです。私も先月見てきましたが、垂井町の駅から100m程離れた民家と民家の間に塚がありました。これが美濃の紙の始まりです。紙の作り方は西濃地方から中濃地方などに伝わり、819年に美濃で初めて紙を漉いたともいわれています。

紙の原料は、三大原料は、楮、三桮、雁皮です。楮は日本中どこにでもあります。三桮はお札の原料です。雁皮というのは、今は水うちわにも使われています。私の小学校時代には、謄写版（ガリ版）の原紙としても使われていました。

岐阜県内で、大正17年頃、紙すきは4700軒ほどあったようですが、生活様式が変わり、障子紙等が使われることも少なくなりました。手漉きの場合には手作業のため価格も高くなり、機械紙が増えました。美濃の紙を残そうと県や市が取り組み「和紙の里会館」が出来ました。

本美濃紙は、昭和44年4月15日に国の重要無形文化財に指定されました。ある程度の支援もありましたがそれから10年経つと5軒にまで減りました。昔は200軒ほどあったのが、今は18工房です。これからどうしたらよいかを一番考えています。本美濃紙というのは守るべきものだと思います。変えてはいけないもの、変えてはいけない理由もあります。変わらないことに意義もあります。守るだけでは間違いなく廃れます。では、これをどうするかといった時に本美濃紙だけではなく、美濃和紙が展開できるひとつの仕組みを作るのが私の今の仕事かなと思っています。

オリンピック、パラリンピックの賞状の紙の話が来た時には、全国の和紙にお話があったそうです。

が、それだけたくさん量は、組織がきちっと出来ている所が少なかったようです。東京の組織委員会と県が話し合った時に、まず機械紙の透かしの入ったデザインの見本を持っていったそうです。私も見ましたが、素晴らしい出来でした。ですがそこで、美濃は手漉き和紙があるのではないですか？というお話が出て、県の地域産業課の課長さんから電話があり、試しに漉いてみてほしいと言われました。これは大変なことだと思いましたが、一度やってみるかということで15枚程度漉いて送ると、今度は100枚ほど漉いてほしいと言われ大変困りました。手漉き組合の若い人達と取り組むしかないと考え、今後のことを考えると一致団結して底力を見せてやろうじゃないかという話になりました。試作は、なかなかいい出来だったそうです。賞状は2枚合わせです。片方に透かしが入っています。普通2枚合わせだと印刷機を回すと糊を使っているためクルクルになって出てくるそうです。手漉きの場合、トロロアオイという練りを使い干してしまうと消えてしまいますので、印刷機からまっすぐ出てきたと言ってビックリされたそうです。紙は、たまたま同じ厚さになることはごくまれにあります。ところが二度と同じ紙は漉けません。繊維が絶対に違う形で絡むからです。世界に一枚しかない紙なのです。オリンピックは一年遅れましたが、和紙は日にちが経つほどしっとりしていい紙になります。

これから美濃和紙はどうなる？という話ですが、県なども一生懸命力を入れて活性化プロジェクト等を行っています。和紙の里会館で、和紙スクールを実施しています。受け入れる工房が少し脆弱なのですが、県や市などに支援して頂きその仕組みづくりをしていけば、1300年歴史があるなら、今後も1300年歴史のある紙づくりが出来る気がします。そういう仕組みの一つを作っていかなければいけないのが今の私の仕事だと思っています。

私は今73才ですが、走って走って、また何回目かの青春です。目的を持ち何とかしようと思っていてやるうちは若くいられると思いますので、頑張りたいと思います。

(資料より抜粋)

【美濃和紙の歴史】

美濃和紙の歴史は古く、奈良時代には写経用の紙に美濃の紙が使われていたと云われています。奈良の正倉院には日本最古の紙として大宝2年(702年)の美濃、筑前、豊前3国の戸籍用紙が所蔵されています。このことから美濃和紙は1300年以上の歴史を有すると考えられます。

平安時代になると、紙の普及により品質の高い美濃和紙の需要が増加します。京都の貴族や僧侶たちの手紙などに、その名がたびたび表れることから美濃和紙に対する評価の高さが分かります。

江戸時代には、高級障子紙として評判になり、江戸時代に障子紙を納め、幕府の手厚い保護を受けました。また提灯やうちわなどの工芸品にも用いられるようになり、明治時代にはウィーンやパリの万国博覧会に出品されるなど、海外にも紹介されました。

このように美濃和紙は長い歴史の中で受け継がれ現在に至っています。昭和60年(1985年)には国から伝統的工芸品に指定されています。そして本美濃和紙は昭和44年(1969年)に国の重要無形文化財に指定され、平成26年(2014年)にはその手漉和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

美濃和紙の魅力は柔らかみのある繊細な風合いをもちながら、強靱で耐久性があり、薄くムラがないことです。この地域を流れる長良川、板取川といった清流に生まれ、漉かれる美濃和紙、今もこれからも最高の品質を届け続けます。

*出席委員会

会員数29名、本日の出席18名です。

*ニコボックス委員会

・会長・副会長、幹事

美濃手すき和紙協同組合理事長 鈴木竹久様には大変お忙しい中ご来訪いただきまして誠にありがとうございます。美濃紙のお話を楽しみにさせて戴きます。

・古田育則君

鈴木さんご無理を申し上げました。よろしく願いします。

・高井良祐君

本日71才になりました。

18名のご投函ありがとうございました。

*幹事報告

・例会終了後、理事・役員会を行います。

<次例会の案内>

第2082回 2022年10月27日(木)

「C. A 地区大会報告」 担当 会長・幹事